

# テクノロジーの力で食を変える 母国の課題と向き合うインターンシップ

Case.03

特定非営利活動法人アイセック・ジャパン 慶應義塾大学委員会

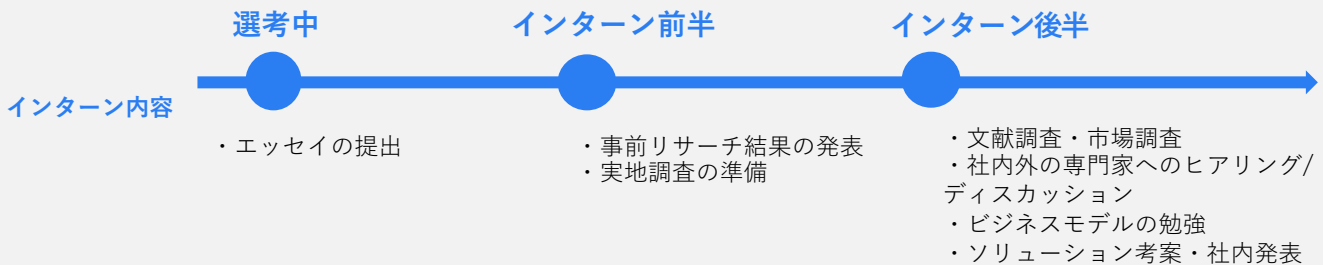
## 基本情報

インターンシップ  
テーマ



SDGs #3  
GOOD HEALTH AND WELL-BEING  
すべての人に健康と福祉を

【期間】2017年1月16日～3月10日（8週間）



## 受け入れ企業様の声

### ■ 自国の社会問題分析と新事業提案型インターン

▶そもそも、海外インターン生の受け入れを決めた理由はなんですか？

NECでは、安全・安心・効率・公平な社会の実現に貢献するため、社会ソリューション事業に注力しています。真の社会ソリューション事業を創り出すためには、解くべき社会問題を深く理解し、洞察することが不可欠です。しかしながら、海外、特に発展途上国にはオフィスにいる日本人には想像もできない問題が多く存在します。そこで、NECは外国人学生を対象とした、自国の社会問題分析と新事業提案のインターンシップを実施することにしました。

優秀かつ情熱を持つ学生を探すため選考に力を入れ、ショートエッセイによる書類選考やビデオ会議面接などを行いました。全世界200名ほどの応募者の中から、ベトナム人のタムさんを本インターンの第1号として受け入れることに決定しました。

### ■ 周囲の1人1人と組織に、大きな刺激を。

▶実際にインターン生を受け入れてみて、社内外に何か変化はありましたか？

タムさんは、ベトナムの食の安全に対して高い問題意識を持っていました。彼女は、ベトナム人ならではの着眼点も大切にしながら、文献調査や専門家ヒアリングなど専門的な市場調査手法を用いた分析を進めていきました。さらに、社内外でのディスカッションを通じ、最新テクノロジーやベトナム以外の市場トレンドについても知見を広げました。最終発表では、豚肉のサプライチェーンやステーキホルダーの問題点を述べた上で、それぞれに対するソリューションを提案しました。既存事業や社内の技術に縛られないインターンシップだからこそユニークな提案は、どれも目を見張るものがありました。

また、彼女の社会問題解決への情熱と言語や文化の壁を乗り越えてコミュニケーションしようとする姿勢は、周囲の1人1人と、そして組織に大きな刺激を与えました。インターンシップは、学生だけでなく受入組織にとっても大きな学びの機会です。

|             |             |  |
|-------------|-------------|--|
|             | <b>社名</b>   | 日本電気株式会社 / NEC Corporation               |
|             | <b>業種</b>   | パブリック、エンタープライズ、<br>テレコムキャリア、システムプラットフォーム |
|             | <b>設立</b>   | 1899年                                    |
|             | <b>規模</b>   | 単独 21,444名 連結 107,729名                   |
| <b>受入企業</b> | <b>受入部署</b> | 事業イノベーション戦略本部                            |



■ 忘れがたい思い出と、全く新しい世界への架け橋。

▶実際にインターンを終えて、タムさんにはどんな変化がありましたか？

この経験は、私に忘れがたい思い出と日常を出て全く新しい世界への架け橋を与えてくれました。評判通り、素晴らしいメンバーとプログラムが私のような人間にも海外インターンシップに参加し、様々な経験をする機会を提供してくれました。日本を代表するテクノロジーカンパニーであるNECの研修に参加することができて、私はとても幸せでした。

インターン内容は、どのようにテクノロジーを使って社会問題を解決するかを学ぶものでした。私にとって大変興味深いテーマでした。8週間というインターン期間は十分に長いとは言えませんが、とても濃い時間でした。ビジネスとはどういうことか、とりわけグローバルカンパニーがどう立ち動いていくのかを学ぶことができました。

日本の歴史ある大企業で働く事は私の夢でした。職場環境はとても洗練されていて、私が慣れ親しんだ文化とは異なりました。日本人は時間調整をして、チームで働くことに長けています。みんな上手く協働でき、その結果成果が生まれます。

私にはNECの専門知識を兼ね揃え優秀なリーダーの方々とは働く機会がありました。その機会は私の視野を広げ、コミュニケーション能力とマネジメント能力を伸ばしてくれました。彼らから問題をどう読み解き、適切な問いをたてるか学びました。解が求められるのは適切な問いがあってこそだからです。また、日本流の同僚や友達との付き合い方も学びました。日本人は、ビジネスにおいて時間を守るなど、本当に礼儀正しく親切です。その習慣はベトナム人も真似るべきだと感じました。



■ 私を強く奮い立たせてくれる原点となる経験。

この3ヶ月間はこれまで私が過ごして来た中で最も素晴らしい時間でした。たくさんの方の事を学びハイレベルな職場環境で働くことができたことに加えて、先進国において私にとって新鮮な文化で生活するという挑戦もでき、それぞれ異なった文化をもつ海外の友人達との出会いもありました。彼らとの関わりで私はとてもわくわくして過ごすことができ、それぞれ違った肌をもっているように私の人生を彩ってくれました。

全て素敵な思い出として刻まれています。それらは今もなお私を強く奮い立たせてくれる原点です。



インターン生

|       |                                  |
|-------|----------------------------------|
| 名前    | Tam Thi Haさん                     |
| 出身国   | ベトナム                             |
| 出身大学  | HỒ CHÍ MINH CITY OPEN UNIVERSITY |
| 専攻    | ビジネス英語                           |
| 語学スキル | 英語、韓国語、ベトナム語                     |

アイセック担当者の声

■ SDGsをテーマにした初の大企業受け入れ。

▶どのような思いでこの海外インターンシッププログラムを作りましたか？

今回のインターンシップは、国連の定める持続可能な開発目標 (SDGs) をベースとして、社会課題解決をテーマとした大企業との協働インターンシップの第1号でした。インターン生の問題意識ベースでプログラムを作ること、インターン生が本当に求めるものを、私たちの事業に沿う形で提供できたことは嬉しかったです。新たな事業の作り方としてこれからアイセック・ジャパン全体でも確立していきたいです。

■ 社会を変えるために、テクノロジーを。

▶実際にインターンが実現してみでの感想を教えてください。

タムさんとの対話で忘れられない瞬間があります。それは、彼女と将来について話していた時のこと。

「将来的にもこの食の安全に取り組んでいくかはわからない。興味ある課題はたくさんある。けれども、社会課題に携わって社会をよくして行きたいという想いは変わらない。そのためには、もっとテクノロジーの知識と、いろんな人から知見を得たり、提携していくためのコミュニケーション能力を身につけていかなければならない。」と彼女は語ってくれました。

「そのテクノロジーの知識が必要って感じたきっかけはなに？」と私が聞いたところ、「このNECでのインターンシップだよ！」と答えてくれました。



アイセック担当者

|         |                |
|---------|----------------|
| 名前      | 犬飼 あゆ美         |
| 所属委員会   | アイセック慶應義塾大学委員会 |
| 学年 (当時) | 3年             |



これまで何十件もの海外インターンシップ受け入れに関わってきましたが、ここまで強くインターン生の変化を間近で実感できたのは、今回が初めてでした。社会課題を変えていきたいという想いを深く共有できたのも初めてかもしれません。タムさんからは、アイセックにありがとうという言葉と、もっといろんな人に参加して欲しいというメッセージをいただくことができました。

私自身、このインターンシップに携われたことを心から感謝しています。